

並柳のキリシタン墓地



中央にダイヤ形の溝があり、四方に十字の刻みが入っています。



湯布院湯山城に拠る奴留湯（ぬるゆ）氏は、大友宗麟に従って島津軍と戦い、その時、奴留湯左馬助が九死に一生を得たことから天正7年頃キリシタンに入信。同14年初め由布院に聖ミゲル教会が建てられ、多くの村人がキリシタンになったといわれます。その後、禁教が厳しくなる慶長19年までの約三十年間に造られたとみられるキリシタン墓地が、並柳・光永の集落の山村に残され、大分県の史跡になっています。湯布院町にはキリシタン墓が86基あるといわれ、大分県の文化財指定を受けています。